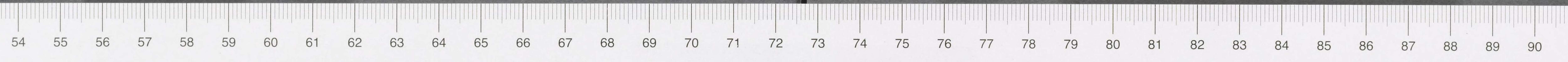


de Koning stond
an deken stam
Dene Nibelung
tegenwoordig toe
Zoo als hij meerd
deide onbegrijpelijk
geelyk stam.

至レリ其法侶僧徒ハ相群聚シテ在位ノ衆心ノ相合メ
壹心トナフニ望ム一千七百八十八年子クケルブリ子
ニ代テニストルト為ル子クケル私ニ國家ノ動乱ヲ靖セ
ント欲ス而メ其為ス所モ亦兎戲ノミ王第三位官負シ
許メ *Schloß Nictogambordiging* 為サシメ其餘ノ兩位官負ト
一様ニ其座ヲ占シム
事体此ノ如クナル間一千七百八十九年五月五日會議ア
リ袍尔盆家ノ社稷ヲ廢絶スキノ議ヲ定ム衆皆一致異
論ナシ王ハ已ニ衆黨ノ為ニ厭セ弄ラレ子ク一身形影相吊外
復タ人ノ相救援スルナシ身邊一切ノ物事復タ我ニ属スルヤ

否ヲ知ラズ但シ王意ハ道理ニ合所アリ頗ル憐ムヘク其心ニ謂
ラク我カ去就ハ惜ニ足ラズ合國安穩ノ謀ハ固ヨリ我カ其ノ
所ナリト云ヘリ民黨ハ尚王ヲ廢黜スルニ意ナケレ之ヲ怨ル心
深ク其逆政ヲ避テ外ニ在ル者及七佛蘭西ニ留リテ共和義團
ヲ結ビ貴族ニ頼テ政治ヲ為ス者 *カリスト* ハ皆謂ラク王不肖ニ終
ニ政ヲ治ルニ足ラス私欲ヲ縱ニメ國家ヲ以テ己ニ徇シテ顧ミズ親
近ノ臣侍皆王徳ヲ厭弄ツルニ至ル其廢黜スヘキハ固リ其所
ナリト云フ然ルニ猶王位ヲ固フセント欲メ今年七月十一日
十二日及七十四日ノ白日八月初四日ノ夜軍旅ヲ起シ一勝ヲ
賭セントシ其年十月ノ争鬪ハ最烈ク遂ニ益々人心ヲ失セ



一千七百九十一年六月二十一日遂ニ出奔ス是以テボウル
 レカ王ヲ救フ策成ラズ而ノ其群下ニ遺セル書ヲ見テ皆
 信々怒リテ兵ヲ搦ル其明年九月十四日十五日金甌不缺ト告
 諭シタル邦國ヲ義團有トナキ帰ス明年六月王城ヲ襲取ル
 八月十日ノ変アリ其後終ニ王ヲ捕テ *Prince of Spin Schandelyk* *Phalghapking* 此位
 テ其罪ヲ以テ王位ヲ奪ヒ死仍其一等ヲ免ス此レ實ニ朋黨ノ亂
 ノ結局ヲ佛蘭西滅ヒノ畧史ナリ羅德勿吉王ハ上三五ノ禍
 亂ニ遭遇スル間身体勇猛志氣種盛從来人ノ未タ見
 サル所ナリ奉勅アリ已ニ土圍ノ兵ノ為ニ捕獲セラレテテムブル殿ニ幽
 囚ニ紙筆墨汁ヲモ給セズ間隙無事ナルヲ以テ其子ヲ

訓導スルヲ務トナシ羅甸文章ハ仏蘭西文章ニ優レリト為
 シ之ヲ受獨リ自ラ羅甸文ノ紀行ヲ讀ム既ニメ國人ノ公議一決シ
 王ヲ死ニ處セントス王聞テ期ヲ緩フスル一三日ニテ死後事
 ヲ料理セント請ヘトモ聞カス一千七百九十三年一月廿一日終
 ニ刑セラレテ死ス其刑場ハ故宮ヲ距ル一遠カラサル地ナリ時
 壬午年三十九歳王死ニ臨テ勇決恐懼ノ色ナク忠勇耶穌徒夕
 ルヲ奉メス其死ハ巴里斯ノマグダレ子ニケルキホフ寺名ニ葬ル
 アド名ドラカト官デクロセアウキス為ニ其地ヲ買テ之カ墓地ヲ守
 ル後王妃ノ骸ヲモ亦其墓側ニ葬メテ之ヲ祭祀ス今王羅德
 勿吉十八世デクロセアウキスカ忠愨ノ志ヲ感賞シ之カエリスリ

muskhaili ord

magdalenen feok
not



ル^{義會ノ名ノ中ニ列シ}ヲ賜ヒ歳俸若干ヲ給シ其俸ハ二女及
フヲ許ス^{義會徽章ヲ賜フ}ア^{按二十六}ゴウ^{世王ノ女}レ
畔ニ立ツ一千八百十五年一月十八日十九日改葬ノ礼ヲ具ヘテ
宅兆ヲ發掘シ王家ノ塋域ニシト^{デニリスニ改葬ス}

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

加列兎四世

加列兎ハ是班牙ノ王ナリ一千七百四十八年ニ生レ其父王加列
兎三世殂スル後嗣テ王位ニ即ク一千七百六十五年^{五人トナリ}バルマ
^地ノ^名^地^名^地^名^地^名^地^名^地^名^地^名^地^名^地^名^地 赤督撫ノ女名ハマリア、ロウイサラ娶ル此時^王是^地班牙國
体衰弱自^{シテ}立^テ大政ヲ行フニ是ラス諸權臣ノ力ニ依頼ス權
臣ノ内和好シテ兵戈ヲ喜サルコトイト云フ者アリアレウギアノ
赤督撫ナリ事ニ隨テ加列兎ヲ輔クアス^地五^名リ^地一^名ノ布論帥
及ヒ他ノ國守縣令コトイノ王ヲ左右スルヲ嫉ムヨリメ動亂繼
キ興リ一千八百八年是班牙ノ社稷終ニ傾覆ス佛蘭西帝
帝其亂ニ乘シ其國ヲ利セント欲シ袍尔盆氏ヲ是班牙王



紐索韻存ニ云ク是班
牙葡葡三太子ヲ布
綸ヲシテ又ニ葡葡
牙三太子ヲ布綸師
アリト云底子又ハ
アリニシテトト

ト相呼應ニ相救援スル丁十カラシムル策ヲ施ス皆意ノ如
クナルヲ得タリ王已ニ闇弱大政ヲ親ラスル可能ハズ太子ヘル
テナント七世ニ位ヲ讓ル已ニ復々自ラ復辟ニ那波列翁ノ
防護ニ頼ル頃之ニ佛蘭西帝加列兒四世及ヒヤスト
リリノ布綸帥トバヨニ子ニ會ス一千八百八年五月十日王
及ヒ布綸帥二人位ヲ去リ國ヲ佛蘭西ニ讓ルヲ告ク是ニ於
テカール父及ヒ其餘ノインスタン王ノ歐羅巴ノ是班牙
領及印度諸領モ皆佛蘭西ニ界フ此年六月四日皇帝ノ
弟ヨセフヲメ是班牙王タラシム又イニタ^{百官萬衆ノ會議}ノ會
議ヲ為メ新國ノ制度ヲ定メ七月六日バヨニ子ノ地ニテ公ニ

之ヲ布告ス
加列兒ハ菟裘ノ地ヲコンピグ子ニ得テ之ニ從リ住ミ歲俸
三十ミルリウレン^{銀貨ノ名是班}ヲ給ス且其死後ハ王
妃ノ為ニ其内ノ二百萬ヲ給スルヲ約ス已ニメ又之ヲ羅瑪ニ遷
ス加列兒四世ノ子ヘルヂナント七世是班牙ノ社稷ヲ後スル
ニ及テ一千八百十五年一月十四日王父子相約ニ歲俸八萬
レアールニ供給ス其後無事歲月ヲ竟リテ其生ヲ惜
ム全十九年一月十九日ナールスニ卒ス其卒スル多少日月
ノ前王配マリヲ^{口ヲサ}モ亦卒ス



レシポルド二世

レシポルド二世ペートルハトスカ子ノ大赤督撫ニシテ羅馬
ノ最モ後ノ帝ナリ帝フランシス后マリア、テシリアノ第三
子一千七百四十七年勿能ニ生ル天資明敏幼弱ニ既
ニ切要ナル諸術藝ニ通ス人ト為リ温和善ク人ト交ル
微賤ナル臣人ト雖皆之ヲ待ツ_テ恩アリ一千七百六十五
年寔班牙王カレル三世ノ女マリア、ロササヲ娶ル其父殂
後トスカア子ノ大赤督撫ト為ル苟クモ己レノ身ニ幸福ノ
事ヲ享ル_トアレハ必ズ之ヲ其臣下ニ分ツ故ニ人アリ彼_ヲ評_スニ
十五年在位ノ間其國ヲ再造セリト曰フ寸ハ之ヲ否ラスト

Sieme, ombony,

スル者少シ其即位ノ初先ツトスカ子ノ内人煙寂寥々
ル地方ヲノ栖止スヘカラス_ニノ國ノ民人ヲ十分ニ耕耘就
カシメント欲シ_ニ子ノ下部_ニ在ル沮如ヲ乾カシラム_ト子

Castellion de

フリション湖ヨリ海ニ至ルマテ長キ湟渠ヲ疏鑿シ水流緩慢
ノ處ハ水車ヲ以テ之ヲ行ル又カスチフリション湖トゴロツセツトノ

de geytanne

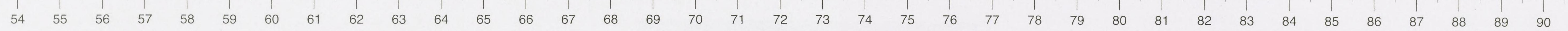
間ノシントギラ_ニ渠ヲ開キ大ニス其コロツセツトノ地ニ人民
ヲ徙シ植シト欲シ人民ノ徙住シト願フ者ハ田畝ヲ給シ家

屋ヲ造築スル材木ヲ錫ヒ二十年ノ田租ヲ免ス
從來五穀ノ交易ハ其財ヲ國財櫃内ニ貯積スル_ト己ニ久シク



積テ累萬ニ交フ是ニ至テレラポルト其金ヲ散メ大ニ耕農
ノ道ヲ闡ク又葡糸ノ貿易ハ從來唯福楞察及ヒピサ
ニ地ノ人之ヲ行フニ此ニ至テ養蠶ノ道ヲ弘メント欲シ國
中ヲノ普ク之ヲ交易スルヲ許ス又大ニ牧畜ヲ弘メント欲シ新
ニ發明スル所ノ牧養^法行ヒ獸畜ノ多寡ニ應メ其價ヲ給
メ之ヲ増殖セシメ且諸他牧畜ニ利アル道ヲ開カシ方為ニ福
楞察ニ於テ Academia geographica
學校ノ名ナ
ラ字書ニ見スヲ造建
ス此校内ノ人耕耘ノ法匠家ノ術工匠ノ藝ニ從事メ些
ノ間隙ナク早ク已ニ幾多ノ利用ヲ生スト云フ^{此時}近國平和ニ
關伐ノ怨ナキヲ以テ其陸軍ノ數ヲ減シテ耕農文章等ノ學

ニ從事セシム但シ其航海ノ便ヲ備ヘント欲メフレガット軍艦
五艘ヲ置キリホルノ地ニ學校ヲ建テ貴族ノ子弟ニ航海
ノ事ヲ教練ス又此存内ニ賣買ノ公書庫ヲ厝キ出シ藥
ト欲レハ乃チ出メ發販セシム又水法<sup>フールトルセルキ
トイイクニテ</sup>醫學ノ別院ヲ
建ツ一千七百七十年又下文ノ品ヲ分テ各衙門ヲ設クノ曰ク
交易學術組織文章科是ナリ各々其業ニ從事メ其道ニ
進シム其トスカ子ノ產物ヲ窩^カ所徳礼哉ニ輸シ賣ルヲ許ス
但シ其商稅ヲ賦セストスカ子トロムバルゴトノ往來ヲ便
セント欲シセストヤヨリモデナニ列ルマテ別道ヲ闡ク其道
ハ亞伯尼諾山脉ヲ越ヘ河渠ヲ涉シテ直ニ達ス其費



加列兒垵卧盧的

加列兒大帝ハビセンノ子佛蘭^建黃部ノ王ナリ七百四十二年ニ生ル年二十六歳ニ父ニ嗣テ王ナリ父王意其國ヲ分テ^{王及兄弟四ノ世}子ヲ封セント欲ス帝其意ニ順ヒ兄弟カル^トマシ世^ト其封域ノ半ヲ分テ其^後後カル^トマン死ス帝又佛蘭^建全州ニ王ナリ其初戦ハサクセントノ兵ナリ争鬪スル^ト三十年^{遂ニ}勇武ナル^トイツテキンド^トラ降服ス王其久ク命ニ逆^トテ怒リ誅戮シテ惨毒ヲ極ム既テ寶師^ヲノ兵危急ナル^ト聞キ急ニ兵ヲ發メ意太里亞ヲ伐テ又寔班呀ヲ征ス八百年寔師列阿三世王ヲ冊ノ歐羅巴西部ノ帝ト為ス初四百七十六年

Westerliche
elbe

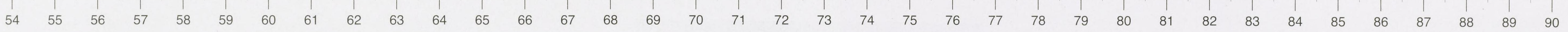
リ^{寶師}スアエキス云生ス帝敗ヒ^後後久ク其位ヲ居^テセシカ此ニ至^テテ法皇加列兒垵卧盧^的ヲ罷シテ此位ニ即^シムト云フ此ヨリ以^テ来今日ニ至^ルセテ少ク盛衰アリト雖^レ凡^レ連^レ縣^トトシ^テ尚^ホ帝國ト^シテ稱^ス佛蘭^建託拔尔電寔班呀^の仙里仙瑣古仙^の和利邊俾^の粵連^の亞華連^の皆帝ニ服事ス其版圖ハエルベ^レ河口ヨリエ^レゴ^レ及^テ七地中海ニ至^リ空^ステ^ルセ^ヨリ^ラア^ブテ^イス^ニ至^リ雪^ヲ戴^キタル^亞而^百山^ヲヨ^リベ^テ子^ノ名^ニト^ニ至^ル是^ニ於^テ西^ニ居^ル帝ト寶^ス斯^ノ二君アル^ニナ^リ帝精勤勸^メテ^テナク^テ制度ヲ建^ルル^ニ慮^廣遠^當時^ノ人咸感服セ^リヤ^リナ^ク毎^ニ學術ヲ弘^メテ^テ道^義ヲ勸^ム是^ヲ以^テ皆^帝ス^テ大^德ノ明主トス蓋^シ帝ハ人君中ノ翹^楚タル^ニ論^ナシ^テ人物ヲ奉^テ帝ノ

大徳ニ企及フ者アルコト少シモニテスキトスガ著セル帝ノ本紀
ハ此ニ述タル外尚帝ノ事跡ヲ載ス今之ヲ尤ニ引證ス
帝ノ制度ヲ建テ^レ已レノ版圖ノ内ニテ^ア一^ノ尊貴ノ勢力ヲ盛ニ
シ法徒及ヒ逸民ヲ凌虐スルヲ防クヲ務メ國中ノ諸侯送ニ相制
シテ其均準ヲ保チ甲乙ノ權衡タラシム政ニ從テ倦ムコトナ
ク百務皆濟ムトメ整ヒ人心皆一ニ歸ス貴族ニ命メ兵ヲ出シ
此地ヨリ彼地ニ陣ヲ徙ス極テ急ニメ些ノ餘^ヲ留メテ帝ノ韶
略^ヲ察セシムルコトナシ然レモ貴族ノ難アルヲ見レハ乃チ之レヲ
赦ヒ敢テ後ルコトナシ帝ノ國ハ帝ノ人主トナリテ鉅大ナル徳業
ニ由テ大ニ其邦家ノ基業ヲ永フスト雖モ若シ之レヲ人ノ下ニ在

ラシトモ其非常ノ人物タルコト知ルベキナリソノ子弟ノ諸王ハ
皆其第一等重臣ニテ皆帝ノ威勢ヲ輔翼シテ以テ王家ニ服
事シ以テ群臣ノ儀表トナル^{既ニ自ラ}國家ノ制度ヲ建シテ萬古ニ
卓越シ又起テ自ラ之ヲ衛^シレリ其智萬事ニ周フニテ國內
ノ一小部ニ至ルマテ皆周^知到^ルコトナリサル所ナシ其造建セル政律ハ
萬世ヲ洞識セル神智ヲ寓シ百務ヲ普濟スル大カヲ具ス
凡ソ帝ノ設施セル法制ヲ廢墮スルニ足レル事務ハ勉^テ成
之レテ誅鋤シ懶惰ヲ刑戮シ惡風陋習ヲ革メテ徑ニ之レヲ防捍
ス其刑戮ヲ用フルハ刑戮スヘキ所以ヲ知リ其寬宥スヘキハ
尤善ク其宥恕スヘキ所以ヲ徹知ス事ヲ舉興サントシテ未ダ

其始終ヲ徹知セズ簡易ニ之ヲ做出ス際大事トイヘ凡容
易ニ之ヲ為シ出シ興シ難キノ事モ即チ之ヲ轉旋シテ速ニ
其緒ニ就カシム其伎術ノ精妙ナル人ノ決メ企及フ所ニアラズ
其牧圖ノ内極テ廣大ナレ凡平日常ニ巡視シテ地勢民俗ヲ
訪詢シ必シク凋落スル者アルヲ見テ八百事皆其廢ラ奉
ケ蒸ヲ刪ル敵我ヲ劫ス寸危キ寸ハ巧ニ之ヲ避ケ機ノ乘
スヘキヲ見レバ乃チ之ヲ討ツ其進退法ニ合スル未ダ帝ノ如
クナルハアラズ帝平日奢侈ト雖トモ其生ヲ攝スル極テ節
約性温和ニシテ簡易一宮ノ人皆帝ヲ以テ模範ト為ス帝
多ク婦人ヲ愛ス然レ凡萬幾皆自ラ聽斷シテ之ヲ人手ニ

委セズ常ニ乾クトシテ政ヲ勤ムル君主ナレバ其色ヲ愛スイナル亦
怨スベシ其百器物千什ヲ用フル極テ智アリ又極テ周密ニシ且保
ス政ヲ行フ寛猛中ヲ得タリ其政律ハ之ヲ國ニ行テ皆宜
シキニミナラス一家ノ主父タル者モ此レニ則テ家ヲ治メハ家治
ルニ至テサルナリ其法教ノ制度ニ至テハ帝ノ廉清ニシテ邦家ヲ
福祉スル大原タレ凡亦此レヨリメ其富殖ノ源ヲ涸竭スルニ至
レリ以上モシテスキヤカ著セルトコロ
ノ如見例ノ本記ニ載セタル文ナリ
八百十四年帝鴨縣ニ崩ス政ニ臨ム丁四十七年帝信ニ在ル
丁十四年ナリ鴨縣ノドムケルキ第一等
大判ニ葬。碑碣ヲ建テ其上
ニ鏤シテ曰ク此宅此ノ下安居其德業鉅大信遵正道之帝加列見



之分骸此人出而大顯佛蘭建之名又弘廓其邦域在位四十七年

穆耳體兒

テマールシカルク、穆耳體兒ハテレイソノ基督撫ナリ此
將軍ハ一千八百三十五年七月二十八日パレイス存人仙蘭
王口デウイキヒリツピスヲ狙射セントセシ才銃ニ中リテ命
ヲ殞ス其生ルハ一千七百六十八年ニ生ル、^西ムテ歳ヲ得
ルハ六十八ナリ父ハ一千七百八十九年十月ナリレコシヘ
ンチー^{土人一和義當時仙蘭}ノ為ニカムブレシス州ノチールスエ
タットニ居レル商人ナリマールシカルク幼ク其父ト共ニ
商賈ノ業ニ従事スドインケルケンノ商家ノ記録所ノ

書記トナリタル寸其職ヲ弁テ、第一隊拔隊^{ダク}詔ニ任フ
此レ一千七百九十一年ノイナリ居ル了幾ハシナク擢ラレ
テ甲必丹トナル所ノ軍ニ臨ミテ武勇ヲ振ヒタルヲ以
テ一千七百九十三年、^アテトダントゼ子ラールニ擢テラル
ゼ子ラールトナリテ始メテシント、^ピテニスルルトシ詔表フ
軍ヲ号令ス一千七百九十六年サムブレ及ヒマース地方ヲ
攻ル軍ノ先鋒^アノ号令ヲ司下リゼ子ラール官レ、左レ
カ属隸タリ此年五月三十一日窩^ス斯^ハ礼^ハ畿^ハ兵^ハヲ掩
撃シテコレヲ破リ北ルヲ追テアルセル^河ヲ踰ユカムホホルミ
ハノ會盟ニ為スニ至ルマテノ戦陣ノ間軍功殊ニ多ク上官

ヨリ委任セル戦ニ臨ミテ其戦略常ニ中レリ一千七百九
十九年再セ先鋒トナル其時仙蘭西ノ戦利アルハ
多クハ穆耳体兒ノ功業ニ出ツ耶波烈翁深ク其軍略ニ
諳鍊セルヲ稱揚ス一千八百三年初メテハノーフルヲ討テ
耶波烈翁穆ヲ選テ總督ト為ス大功アリキウルホルテ
ンドムハノーフルヲ取リテ仙蘭西ニ属セシメスユリゲン地
ニテコシヘンチー一致シテ叛カサ
ル會盟ノ盟ヲ為ス已ニ把理斯ニ返ル
ニ及テ其勲功ヲ賞シテ親衛煩隊ノ大将トナシ其明年
大功アル諸將校ト共ニ拔擢セラレテマールニカルクト十
且新ニ立ル功名ニ隊伍ノ義會ノゴロトコロイスノ職任

ス一千八百五年ヨリ一千八百六年ニ至ルマテノ戦陣ニハ耶
波烈翁カ親統帥セル大軍ノ一デヒシ一ニ將タリ仙蘭西
ノ兵ノ大捷ヲ致セルハ穆カ四千ノ強兵ノ功多キニ居レリ
俄羅斯ノ大将モ左ソツカ兵ト會戦スルニ及テ大ニコレ破
ラント奮勵シテ叛リニ急ニ之レヲ攻メ破リ俄羅斯ノ援兵
来リ救フニ暇ナカラシムルハ其軍業ニ章キ一ノ大ナル微
タリ此戦ニ克シヨリ穆カ名大ニ仙蘭西兵隊ノ内ニ著
レ全國ノ人皆其名ヲ稱揚スカノレイキ地名ノ因儕其府
ニキニ左ソツフニ戦克タル記功ノ碑ヲ建ント請フ一頻ナレ
穆固ク執ラ許サス一千八百六年ノ季ハムセシクテ取リ

シモ亦穆ノ功ナリ此間穆英吉利ト深仇ノ色ヲアス
シ其地ニアル英人ハ悉クコレヲ緝捕シ諸々英國人ノ所
有ノ物ハ皆贖物トシテ取リ上ケタリ一千八百八年テレ不
川ノ帝國內共督撫ニ升シ此位爵ニ属スヘキ十萬フラン
ンクス金貨ノ歳俸ヲハイルノ王家ノ歳入ヨリ獻
貢スヘキシ余ス一千八百十四年ノ會盟ナリ穆其歳俸
ヲ失フ寔班牛ノ軍ノ後速ニ穆ヲ其國ニ遣ル諸將ト共
ニ軍事ニ從事其兵隊ヲ以テシカナノ戦ニ克ク後那波
列ノ前ニ從テ俄羅斯ヲ討ツ那波列ノ前ニ余シテケレ
ムリシヲ燒討セシム那波ノ此後及七次ノ役皆穆ノ戦功

敵ヲシテ

多ク終和ヲ請フニ至ラシム羅德物吉十八世那波列前也テ袍
尔益家後辟ノ主
即位ノ始穆猶巴里斯ニ在リ後タ文武官員ノ数ニ列ス
ルニ意ナシ一千八百十六年強テ起シテ第十五隊ニリタイ
レガヒシノ指揮官ニ任ス此隊ノナードクワルチル屯衛
所ノ持ハローウシノ地ニ在リ頃之ニテ穆カ生シタル北土ヨリ出ス
總代人官ニテ議政廳ニ坐ル人員ノ頭領ニ轉シ一千八百十九
年バイルニテ王政ニ參贊ス伯爵西ノ尊貴ノ官也二陞ル一千八百三十四年マール
カルク官ソウルト議政
大臣ニシテナード、ブレシテント大臣ニシ
テールロフ軍
機參ノ官ヲ解クナ全閣異議シテ國王ノ言
ニ從ハス政閣崩解セントスルニ方テ王ハ穆ヲ奉テソウルトニ

ント欲シ閣部大臣ハ皆ソウルトガ當時ノ第一ノ人物ナレハ
之レヲ留メテ原職ニ就カシメント欲ス穆強テ辞スレト允
ラ得ス已ムコトヲ得ス其官ニ任ス穆^國自ラ政事ハ其長ス
ル所ニアラサルヲ知り西律房^{政律刑}ノ^律ニ^カニ^ストルノ^椅ニ^坐ス
モカビ子ツツラト^下官ノ^椅ニ^坐スモ俱ニ皆已レノ正處タラサ
ルシ覺ヘタリ政治人物ヲ是非スル刊行文中穆カ政閣在
テ嘿シテ可否スル所ナク徒ニ位ニ^スルヲ評スルヲ以テ人ノ
惡ミヲ^其請^クルニ^ハアラサレ^也^自ニ^ストルノ官ヲ免スルヲ請^フト
已^ニ定^メタリ^其第一月ノ某日ノ朝王ニ侍^シ手ニ官ヲ^謝スル
上書ヲ^把リ而シテ王ニ奏シテ必^ラス官ヲ免^シ後タ原職ニ^後

スル^トナカ^ラシ^テ請^フ史氏曰穆耳休兒ハ耶波列翁カ^也キ
ラ^ルノ内ニ在テアル^ト希ナル人物タリ其人才智アリテ且人ノ
務メ行^フヘキ所ヲ勉^ム是^レシテ一生ノ間令名ヲ得^{タリ}仙蘭
西ノ人ハ事ニ處メ優美ナレハ^強ノ行ハ稀ナル習ナル^ニ穆
ハ^獨リ^頑強ナル行アレハ^{閣部ニ上リテ敢テ已レカ}甚^タ人ノ為^ニ喜
セラレスト^雖比^然レ^氏仙國ノ人^帝ニ^之レヲ^尊ヒ言^ヒ死^ニ至
ル^マテ^国人^之レヲ^崇敬^シテ^衰フル^トナシ

西史外傳(2、3) 箕作阮甫・麟祥關係文書44



フランス、カールル、ヨセフ、ナポレオン

ナポレオンハナポレオンボナパルテノ子ナリ母ハボナパルテ
ノ第二妃ラーステンレイキノアールツベルトヘンマリア、ロ
ウサナリ初メ妃聖格孫篤ニ囚ヘラレ次日巴里斯ニテ
法ニ入り一千八百十年四月卅三ニテ継妃ト為ス一千八
百十一年三月二十日ヨセフナポレオンシバ里斯ニ生ム百
一個人大煩ヲ放チテ其誕生ヲ知ラシム又辨火ヲ用テ舊
帝國イギリスノ全部ニ通報シケレハ其國ニテモ大煩ヲ祝
賀シテ之レヲ國內ニ通知セリ帝ボナパル其降誕セシ子ハ男
孩タルヲ聞テ殊ニ甚々悦ブ其坐草ノ間母氏ノ苦惱

極テ劇ナレハ帝家ノ産科危ズボイスモ久シク母子俱ニ安
穩ナルヲ保シカタク下ニ失望セシカ誕兒初メハ阿癖ヲ
生機ナキ者ノ如シ十密紐多ク過ル後二三滴ノ焼酒ヲ
噴キ入シカ其生命ハ穢初テ起レリ仏蘭西國內ノ人
上下皆喜ブ丁限リナク古今未タ曾有ラサル華麗
ヲ極メテ其降誕ノ祭儀ヲ舉行ヘリ

其生レタル日即チ三月廿日盛儀ヲ具ヘテ澆水ノ礼ヲ
イレル地ノ廟堂ニ行ヘリ其初メテ生ル寸徑ニ羅
瑪王ト名ツテ其礼母ニハ康彊ナルビルゲルノ妻ヲ選ミ
奉ケ其女傳ニハ稀世ノ功業特達ナル賢徳アル夫人云

モシテスキユイシヲ奉用フ此年ノ五月ノ下漣皇帝

皇妃皇太子カルハドス及ヒカナルノテバルテノント州省

ト云ハシカカシニ幸ス其駕ヲ還ス寸地方ノ人民皆歡喜

シテ大声ニ呼ヒ上下共和太平ノ象ヲ見ル

僅ニ六月ノ齡ニ届レル寸一人ノ學術ニ覃ケレハ矣ニシテ

世ニ用セラレサル者アリゼ子ラール官ラツアニ回テ書ヲ幼

主羅馮王ニ上リ為皇帝ニ請テ困迫ヲ贖サントシテ請フ

皇帝コレカ請ヲ允ス是レヨリ幼主ノ傳達ヲ請フ者

甚タ多シ

児タル寸大概其性頓良ナリ然レモ時ニ或ハ焦燥シテ慰解

ダレル

ス可カラサルナリ此時女傅大氏之レカ狂躁スルニ任セ敢

テコレヲ住メスシテ嚴酷ノ辭ヲ温和仁ノ討ノ内ニ寓シ

テ漸ク之レヲ開諭シ其ヲシテ放縱自肆ノ非ヲ悟ラシ

ム但レ帝ハ之レヲ愛撫スルニ深ク教ク見下遊嬉シ諧

謹ヲ為シテ他ヲ悦ハシム是ヲ以テ此際ノ小話モ亦少カ

ラス

羅馮王幼フシテ既ニ善心アリ其猶甚タ幼ナル寸將校

ノ寡婦書ヲ王ニ上リ王ノ代リテ父帝ニ説テ恩賚ヲ

蒙ルヲ請フ王乃チ代リ請テ其意ニ允タシム又盧僞

ノ言ヲ吐クヲ喜ハス一保媪陰力ニ覆益子二三個ヲ其

ヘテ之レヲ人ニ告ルコトナカラシム蓋シ此實ハ幼主之ヲ
食ハハ乃チ吐スルヲ以テ人ノ之レヲ其フルナシト云フ既
ニ帝妃適ク見テ其之レヲ得ル所以ヲ向フ主此時
偽ヲ道ハス但タ帝妃ニ白シテ曰ク阿婆マム見其事
ヲ人ニ道ハサルコトヲ約セリ

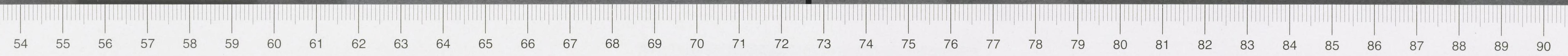
一千八百十三年幼主慶妃ヲセ七子ニ鬼ノ妃大ニ
愛撫ノ情ヲ發シ兩手ニテ抱テ胸ニ貼シ
感愴ノ涙ヲ垂ル

一千八百十四年三月二十九日同盟諸侯ノ兵已ニ近ク
薄レル寸侍者幼主ヲ奉シテ巴里斯府ヲ逃レ出シ

テハラホウイ
ルレトニ赴ク

蓋シ宮中
ノ地名ナシ

類ニ宮中ニ留リ且 *sheer paper* ヲ去ルヲ欲セス已ラ得
ス強テ帝妃ノ轎中ニ乗セ去ル一二日ノ後マリア口ウサ
帝ノ位ヲ避クル信ヲ得乃チ幼主ト共ニ乱ヲ勿能ニ避ク
一千八百十五年三月五日那波列翁プロ口左ニセノ海岸
ニ着ク報ヲ得タリ然マリア口ウサ母子後タ彼レト合スル
ヲ防ク一極テ密ナリ一千八百十八年七月二十二日幼主
ノ祖父即高斯德幼主ヲ號シテレイフスタドノ基督撫ト云
既ニ高禮斯德禮歳帝ハ幼主ノ後見ナレ其ノマリア口ウサヲ訪訊スルモ亦
漸ク疎滴トナル仙蘭西ノ新刊朝報ハ故サラニ過メテ敢
之レヲ視セシメス幼主歳五歳ニ届ル嘉樂撫ム



ヂートリクステインシ其傳ト為シホルキス及ヒコルリウス
ヲ其教師ト為シ女傳モシテスクイノウニ代フ此レ
ヨリ以テ幼主ヲ看守スルコト極テ嚴シク人ヲ通スルコトヲ
允サス仏蘭西人ニ至テハ防禦尤モ密ニ其法令ノ苛
察ナル下ニ云フ所ノ如キニ至レリ一千八百二十九年バル
テレノイ那波列翁及ヒエグイプテ^{陸日}ト歎スルニ首ノ作リ
故サラニ之レヲ携テ勿能ニ赴キレイクス多トノ赤督撫^即
^{ヨシゲナ}ニ交シ共ハ且ツコレニ見ヘテ奪ヒ還ラント思ヒ嘉
^{ホシナリ}樂撫^トドトリクステイン及ヒ^嘉樂撫^トセセルニニ就テ百
方幼主ニ見フルコトヲ求ムレ^陸遂ニ得スシテ後之ニ巴里

斯ニ返ル是ク如ク幼主ヲ看守シテ世ト交ヲ通スルコト能ハ
サラシムヂートリクステイン嘗曰ク此看守ノ主意ハ
一ハ幼主ヲ少シモ國家ノ事ヲ知ラシメスニテ治國平
天下ノ見識ヲ生セシメサルカ為ニ一ニハ其生命ヲ断ツ
ニモ其側ニ侍スル人ナキ時多キヲ以テ其謀ヲ為シ易カ
ラシメンカ為ナリト云ヘリ

一千八百三十一年ノ季ヨリ幼主ノ健康減シテ病ヲ得翌
年ノ初其証頗ル危急トナル
醫師輩既ニ皆其治ス可カサルヲ決セシテ幼主帝妃
ト共ニスコンブリュニニ赴ク此レ是年六月二十日ナリ是ニ

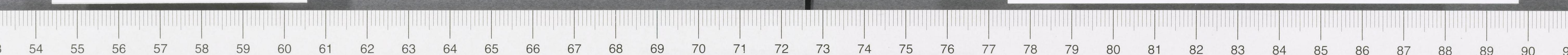
ヨウキユク
イ子ル宗
寺内

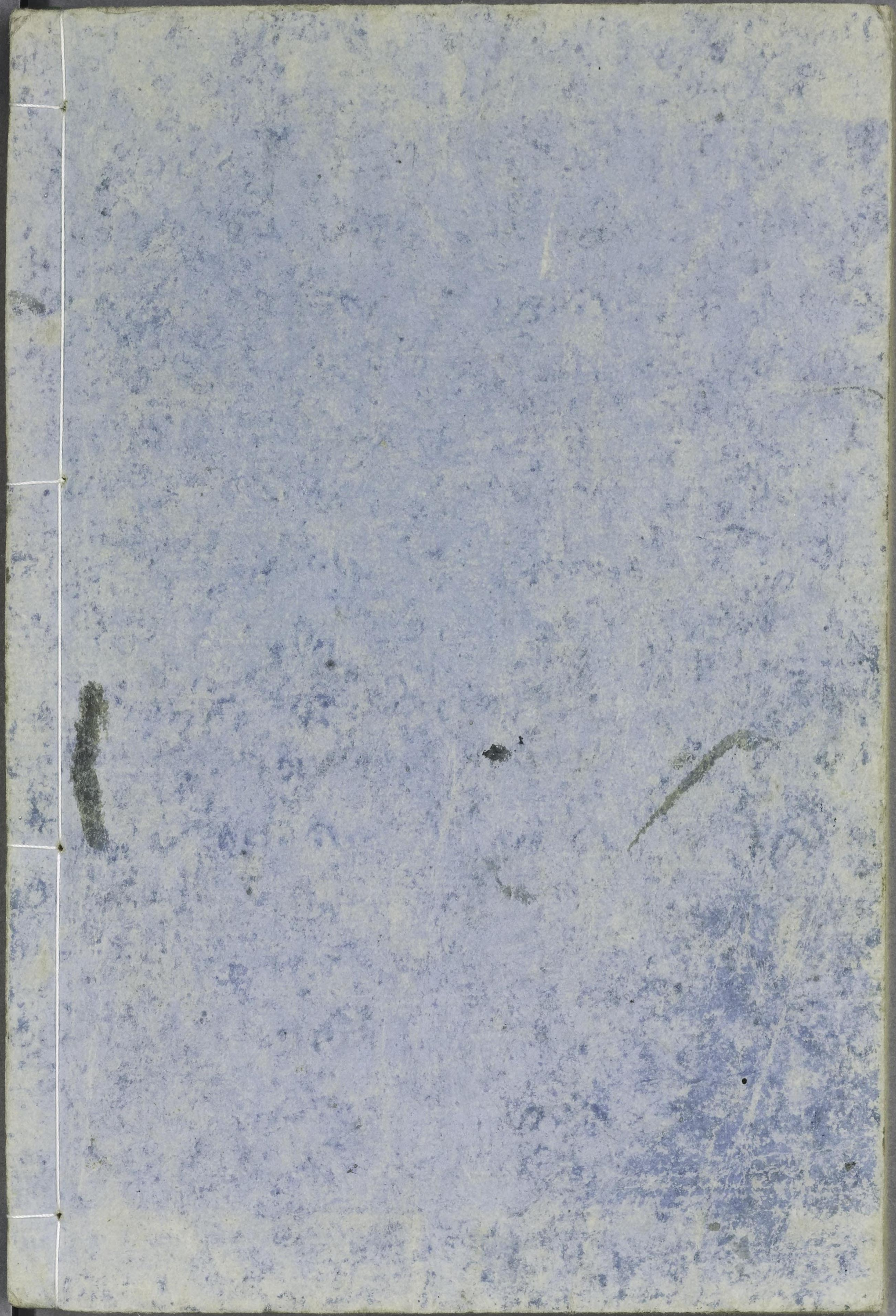
於テ寺ニ赴テ寺律ニ從セ其後スコンブリシニ給仕ス
ル人皆礼ヲ備ヘテ款待セリ幼王ノ病ハ胸旁ナリ七月
ノ半ニ及テ其病少シク輕快セルニ似タリ然レモ幾バクナク
又困劇トナリ一千八百三十二年七月廿二日終没ス
寓メ斯徳礼歳帝幼王ノ意太里亞ニ旅行セントス
ル前議定ニテ曰ク皇孫若シ没セハ帝家ノ親眷ニ用
フル礼ヲ以テ代メ帝王ノ兆域ノ側ニ葬ルヘシトナリ越
ニ廿四日其遺骸ヲピエブリーキノ庭内ノ寺ニ奉シ其後
他ノ心臓ヲロレットノ廟堂ニ葬リ諸内臓ハシントス
テハ六寺ニ葬ル其遺骸ハ同日亭午カビセイ子

ノ寺ニ送り拜奠ノ礼ヲ舉行フマリアノ口ヲサハ深ク
其死ヲ哀ミ自ラ書テ修メテ七月廿八日其凶問ヲ已
レノ老萬ナル祖母ニ遺リ以テ其心曲ヲ寫ストナフ
寓メ斯徳礼歳帝ノ帝ヲ以テ下文ヲ其墓碣彫
鑿ス語ハ羅甸ヲ用フ

ヨルセフ、カール、フランス、基督撫般レイア
ス多ドノ萬世記念ノタメニ仙蘭西帝那波
列翁ノ子寓メ斯徳礼歳ノヤールツハルト
ヒマリアノ口ヲサノ生ムトコロ一千八百十一年
七月二十日巴里斯ニ生ル其襁褓ニ在ル間冊

三子天羅瑪王卜為不
他後提入志心神身休降眾兒一越越因身休
傾長容色鮮紅言吐短衣家天以兵學二於元
機慧等倫方之故心胸病之羅上哀慟不
死凶深八百三二年七月二十日勿錢人劍引
刀引大帝城人內二於元他之據奪去少





国立国会図書館

西史外傳(2、3) 箕作阮甫・麟祥関係文書44

